

DSP五協フード&ケミカル、 導入後半年で投資費用の回収を実現 ERPとの柔軟な連携が可能なRPA



DSP GOKYO
FOOD & CHEMICAL



AUTOMATION
ANYWHERE[®]
Go be great.

組織の概要

大日本住友製薬のフード&スペシャリティ・プロダクツ部門と子会社であった五協産業が事業統合して2010年に発足したDSP五協フード&ケミカル株式会社。“「役に立つ」を揃えます。”をコーポレートスローガンに掲げ、大日本住友製薬グループ会社として、多糖類を中心とした食品素材をはじめ、医療品原料や化粧品原料、コーティング材料・工業薬品、電子薬剤といった化成品分野の幅広い商品を提供しています。研究開発部門を持つメーカーとマーケティング力や幅広いネットワークを持つ商社としての機能を兼ね備えることで、研究・開発・販売 一体型企業としての強みを発揮しています。

課題 Web EDI関連業務の自動化を推進

2010年に発足したDSP五協フード&ケミカル株式会社では、これまで利用してきた基幹システムがEoSを迎え、環境変化にも柔軟に対応できる基幹システムへの刷新を目指したプロジェクトを2014年に発足させました。同時に、業務負担の高かったWeb EDI関連の業務自動化に取り組みました。当初は多業界にわたる4000を超える取引先全てを網羅できる単一のEDI構築は困難だと判断し、Webブラウザに特化した自動化ツールを検討したものの、実装が進まない状況でした。その後、自動化に向けたプロジェクトを再度推進していくべく新たな仕組みを模索。そこで注目したのが、すでに市場に広がりつつあったRPAでした。

ソリューション OBICとの連携が可能で豊富なトリガー機能が魅力

RPA導入に向けて情報収集を開始した同社。社内では、申請システムなどパッケージ製品を利用しているケースが多く、それらに横断的に対応できるものを検討。特にWeb EDIでの受注情報を登録する基幹システムにはOBICを採用していました。リモートデスクトップサービスを經由しての利用にも対応できる製品として、オブジェクトクローニングといった優れたコマンド群を持っていたAutomation Anywhereに注目しました。

また、Web EDIによる受注時には顧客から送られてくるメールをトリガーにBot

自動化されたプロセス

- ・利用している外部Webサービスの請求データをサービス事業者のサイト経由で自動収集
- ・輸出入状況などの情報をシステムから取得し、Excel加工後に社内ポータルに自動掲載
- ・Microsoft Formsを使ってBotへの情報収集指示をユーザー部門自ら実施できる
- ・Excelにまとめられた当月調達情報を読み込み、OBICへ自動登録
- ・顧客からの通知をトリガーに、各顧客サイトから関連情報を自動取得し担当者へ連絡

業界

- ・食品、化成品

「RPAは、従業員の業務負担を軽減して新しいことにチャレンジできる、クリエイティブな業務に専念できる環境を提供してくれるツールだと思っています。Bot数はまだ少ないものの、RPAを活用することで多くのリターンが享受できていることを経営層に報告できました」

メリット

半年で約 **596** 時間

業務削減効果

半年で **100** %

投資費用の回収



— DSP五協フード&ケミカル株式会社
経営管理本部 システム部 部長

吉永 勇樹 氏

操作を進めていくため、豊富なトリガー機能などを持つAutomation Anywhereが最適でした。さらに、将来的なAI OCRへの展開をはじめ、Botのバージョン管理機能や認証情報を管理するCredential Vaultが備わっているなど、Automation Anywhereだけで運用管理が完結できる点を高く評価。サポート面でも、A-Peopleなどのコミュニティが用意されているなど、豊富な技術情報がある点を評価し、結果として、同社における業務効率化を実現するためのツールとして、Automation Anywhereが採用されることになりました。

詳細 開発・運用を効率化しながら、ROIの高い業務を優先して自動化

RPAを社内で展開するに当たり、同社ではBot開発・運用を担うシステム部のメンバーが少数精鋭であることから、メンバーにかかる負担をできるだけ少なくしつつ、効果的に開発・運用を行うという方針を策定しました。

たとえば、自動化業務の選定においては、要望があったすべての業務を自動化するのではなく、本来やるべき対象業務を絞り込んだうえで、RPAが解決策として適正であり、ROIが高いと判断された業務を優先して対応することで、RPAの導入効果を高めるというアプローチを採りました。

また、開発を効率化するための工夫として、システムへのログイン・ログアウトやエラー時の管理者通知といった機能群を20あまりの部品としてBot化。運用に当たっては、現場がRPAを利用する際の手続きを最適化するため、Microsoft Formsや Power Automateを組み合わせることでメールトリガーでRPAが実行されるようにするなど、システム部に連絡せずともRPA利用が可能となる仕組みを構築しました。

結果 導入後半年で596時間を削減、システム投資も回収

今回RPAを導入したことで、導入後半年ほどで596時間もの業務効率化を実現することに成功した同社。導入前に各部門へのヒアリングによって削減可能とされた1408時間のうち、42%ほどを達成しています。596時間の業務削減によって、RPAのライセンスをはじめ、サーバー費用やRPA開発工数など、システム導入に関わる投資コストを回収することができました。

現場からは、RPAによって人為ミスの削減が可能になり、精神的な負担の軽減につながっていると評価の声が寄せられています。また、新たなことにチャレンジする時間の創出や、業務改革意識の醸成にも大きく貢献していることが、定量的な効果以上にRPA導入の大きな効果であったと同社は評価します。

経営層からは、RPAに対して従業員の削減につながる仕組みとして従業員が警戒しないかと一部懸念する声が上がっていたものの、思った以上の効果を発揮していると、今では高評価されています。

今後 全社的にRPAを展開、AI OCRも含めた新たなBot作成にも意欲的

今後については、Web EDIに関する基幹システムへの登録の自動化を進めながら、全社的にRPAを展開していきたいと語ります。また、AI OCRなど次のステージにつながるRPAによるBot作成にも取り組んで行くとしています。なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)後の新たな働き方に対応するため、業務負荷が高まる可能性のある与信管理の業務にも、RPAを積極的に活用していきたいと同社は考えています。

Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 www.facebook.com/AutomationAnywhJP

 contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2020年6月バージョン1

「システム部の負担が減らせるよう、部品や実行インターフェースを先行して用意してきました。現場自らRPAが呼び出せるなど、現場に浸透しやすい形で展開したことが成功のポイントの1つ」



— DSP五協フード&ケミカル株式会社
経営管理本部 システム部 主任

大杉 昌平 氏

「596時間の業務削減によって、RPAのライセンスをはじめ、サーバー費用やRPA開発工数など、システム導入に関わる投資コストがすでに回収できています。対応業務をさらに増やしていけばいくほど、リターンが享受できます」



— DSP五協フード&ケミカル株式会社
経営管理本部 システム部

大塚 浩介 氏